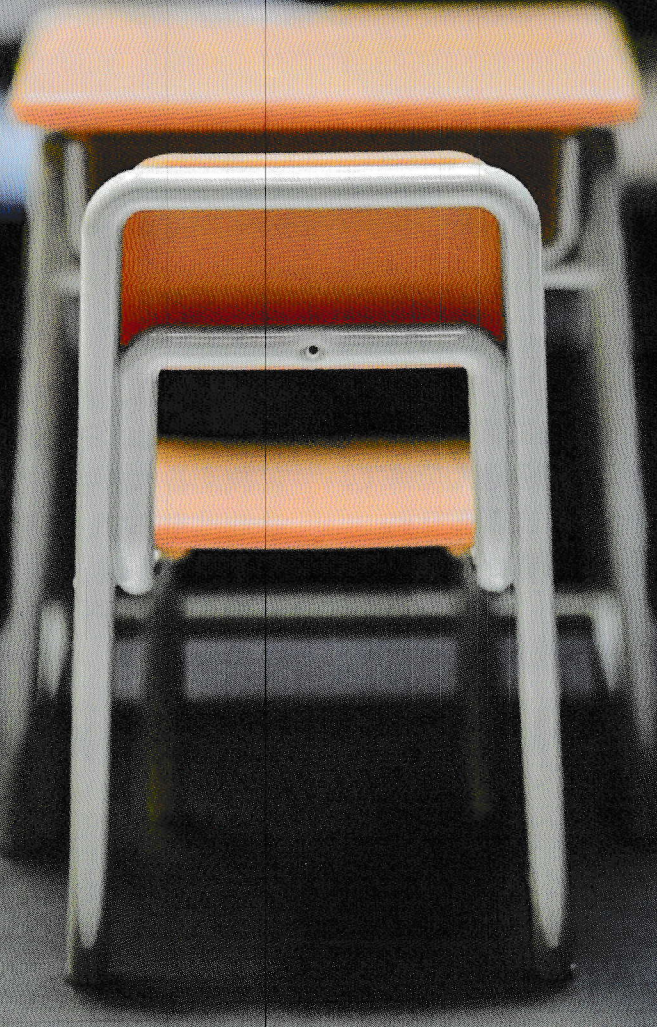
2017年
第55回
ギャラクシー賞
大賞

2018年
第38回
「地方の時代」映像祭
優秀賞

教育と愛国

知ってほしい
教科書で〝いま〟何が起きているのかを——

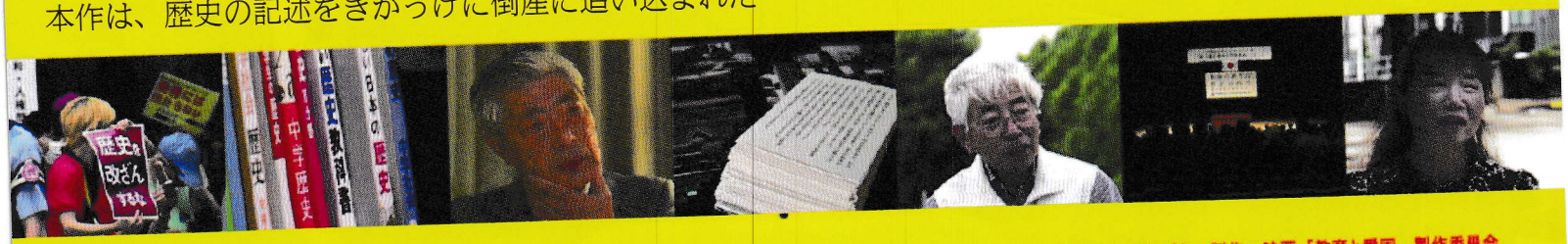
監督＝斉加尚代　語り＝井浦 新　プロデューサー＝澤田隆三、奥田信幸　配給・宣伝＝きろくびと　2022年｜日本｜107分｜カラー｜DCP　©2022映画「教育と愛国」製作委員会



映画「教育と愛国」HP　映画「教育と愛国」HP　映画「教育と愛国」HP　映画「教育と愛国」HP

ひとりの記者が見続けた“教育現場”に迫る危機

いま、政治と教育の距離がどんどん近くなっている。軍国主義へと流れた戦前の反省から、戦後の教育は政治と常に一線を画してきたが、昨今この流れは大きく変わりつつある。2006年に第一次安倍政権下で教育基本法が改変され、「愛国心」が戦後初めて盛り込まれた。2014年。その基準が見直されて以降、「教育改革」「教育再生」の名の下、目に見えない力を増していく教科書検定制度。政治介入ともいえる状況の中で繰り広げられる出版社と執筆者の攻防はいま現在も続く。本作は、歴史の記述をきかっけに倒産に追い込まれた大手教科書出版社の元編集者や、保守系の政治家が薦める教科書の執筆者などへのインタビュー、新しく採用が始まった教科書を使う学校や、慰安婦問題など加害の歴史を教える教師・研究する大学教授へのバッシング、さらには日本学術会議任命拒否問題など、大阪・毎日放送(MBS)で20年以上にわたって教育現場を取材してきた斉加尚代ディレクターが、「教育と政治」の関係を見つめながら最新の教育事情を記録した。教科書は、教育はいったい誰のものなのか……。



監督｜斉加尚代　語り｜井浦 新　プロデューサー：澤田隆三／奥田倡幸　撮影：北川哲也　編集：新子博行　録音・照明：小宮かづき　製作：映画「教育と愛国」製作委員会
製作協力・宣伝：松井寛子　宣伝アドバイザー：加瀬修一 (contrail)　宣伝美術：追川恵子　配給・宣伝：きろくびと　2022年／日本／107分／カラー／DCP　www.mbs.jp/kyoiku-aikoku

COMMENTS　（公式ホームページより）

・私は“あの時代”の空気感を覚えている人間です。『教育と愛国』を見て、何がそんなに怖いかと言うと、政治がどんどん教育の現場に踏み込んで来て、国の方針と方向で変わって行ってしまう事です。簡単に左翼だの反日だのと言った言葉が、教育者の口から出て来る怖さです。

—湯川れい子（音楽評論家・作詞家）

・学者とは、真実を追求する者であるべきであり、教科書とは、その時代その時点での真実を子供たちに教えるべきものである。そこに、政治の入り込む余地は本来ない。そのことをはっきりと教えてくれる映画である。

—池田理代子（漫画家／声楽家）

日時：2023年**2月26日（日）①10時・②14時**

斉加尚代監督の舞台挨拶あります
午後の上映後16時頃（予定）

会場：尼崎市立**女性センター・トレピエ** 大ホール

上映協力券代：**900円**（できるだけおつりのないようにお願いします）

※会館からのお願い：必ずマスクをつけてください。発熱のある方は入場ご遠慮下さい。
会館内および会場内で大声での会話はお控えください。

主催：映画「教育と愛国」尼崎上映実行委員会　連絡先：松岡携帯（090）4902—8398

共催：尼崎市平和委員会　**後援：尼崎市教育委員会**